

法政大学大学院  
入学試験問題用紙

試験科目	公共政策研究科 サステナビリティ学専攻 修士課程《一般》	2026年度 第3回	試験時間
小論文			60分

辞書参照 (可・否)

[注 意] 解答は、別紙の解答用紙に記入すること。

問1 以下の課題文を読み、設問1～3に解答しなさい。

著作権の関係で、本文は掲載いたしません。

法政大学大学院  
入学試験問題用紙

試験科目	公共政策研究科 サステナビリティ学専攻 修士課程《一般》	2026年度 第3回	試験時間
小論文			60分

辞書参照 (可・否)

[注意] 解答は、別紙の解答用紙に記入すること。

著作権の関係で、本文は掲載いたしません。

[出典：中塚 武『気候適応の日本史—人新世をのりこえる視点』吉川弘文館，2022年，p21-26]

<注1> 課題文の出典において、著者は、「古気候学とは近代的な気象観測が行われる前、主に一九世紀以前の気候の変動を自然もしくは人為のさまざまな媒体のなかに含まれる多様な代理指標（プロキシ）を使って復元する学問であり、実に幅広い研究分野が集まったものである。」(p68) と述べている。

<注2> 図3は省略した。

<設問1> 課題文のうち「第二の任務」に関わる二つの段落の要点を300字以内（句読点を含む）で記しなさい。

<設問2> 課題文の下線部（1）に関し、このような取り組みを行う意義を、「第三の任務」に関わる二つの段落の記述に基づいて200字以内（句読点を含む）で説明しなさい。

<設問3> 地球温暖化対策の考え方には「緩和」と「適応」がある<注3>。地方政府や地方公共団体による最近の取り組みの中で「適応」に向けて重要と考えられる取り組みをひとつ挙げ、その内容と意義、課題について500字以内（句読点を含む）で述べなさい。

<注3> 課題文の出典において、著者は、「我々が引き起こしている地球温暖化に対して、我々自身に求められている対策には大きく分けて二種類のものがある。一つは人為的な地球温暖化を食い止めるためにその原因を取り除くことであり、もう一つはすでに起きてしまっていて今後もある程度は起きてしまうことが確実な地球温暖化からの被害を軽減することである。前者が気候変動の「緩和」であり、後者が気候変動への「適応」である。」(p17) と述べている。

以上